

# 未来を創る



さくらば節子の県政報告  
Vol. 7 (令和4年度第1号)  
2022.9.1

## ご挨拶

新型コロナウイルス感染症との3年を超える戦いで疲弊している地域経済は、ウクライナ紛争による世界経済への打撃と相まって、さらに困難な事態にあります。

政府には速やかに経済再生のための支援と、また台湾有事に備えて強力な安全保障政策を推進していただきたいと思います。

## 公的支援の必要性—社会的弱者対策の課題—

日本の製造業は材料費・運搬費の値上がりによって商品の値上げを余儀なくされ、物価高が国民生活を直撃しています。とりわけ低所得の家庭、片親家庭や親族の支援に期待できない孤立した方々の苦境が目に見えてきます。

お訪ねしたある生活保護世帯のケースでは、お子さんはいるのですが訳あって疎遠になってしまった高齢者の一人暮らしでした。保護世帯でも家族が多く若い世代がいる場合などは暮らし方を工夫すれば良い状況が作れるかもしれません。一番保護給付額が少ない後期高齢者であるこの方の場合は、住居費と光熱費等を取り除くと、純粋に衣食生活に回せるお金は2万円を切る状態で、バス代にも困窮していました。そこで生活の足しになるよう少し働いてお小遣い稼ぎしたいと思ったのですが、生活保護を受ける人は就労収入が15,200円を超えると、超えた分は受け取る生活保護受給額から引かれてしまう「就労収入基礎控除限度額」があります。せっかく働いても引かれてしまう現実に力を落としておられました。

生活保護受給額は年金受給者とのバランスもとらなくてはならず、慎重に考えられた末に決められています。生活保護受給者は納税義務がなく医療費は無償ですから、その点は皆さんとても感謝し



ています。しかし、自助努力できる方にとって基礎控除額がせめてこの倍くらいあれば、努力のし甲斐もあるのではないかと思います。同時に各分野における就労紹介体制があれば、よりよい支援につながる可能性があります。できる方には少しでも就労していただき社会で活躍を続けてもらいたいです。

別の世帯はシングルマザーとお子さんが二人、家族三人で暮らしておられました。お母さんが頑張っておられますが、貯蓄は少なく、何よりも子供たちが高校を卒業するまで自身が健康で働き続けられるのか、少し不安を持っておられます。フードバンク等の市民活動には助けられていると感謝しておりましたが、この世帯の場合は、離婚が成立した時点で父親側から養育費を受け取るという契約ができていれば事情が違いました。日本も「子育ての責任」を夫婦両方が持ち、子供を引き取った側の親に対してもう片方の親が相応の養育費の支払いをするよう義務化していくべきです。

今の時代、誰でもいつ何時大変な困難を抱えて暮らしが傾くかわかりません。家族の病気や災害、失業などから暮らしが困難になることは容易に想像でき、事情有って親族などの力に頼れない場合も出てきます。できる時に貯蓄をしたり保険等への加入をすることも必要ですが、不慮の事態に陥ったときには公的支援が不可欠です。特に環境が改善した場合には社会生活に戻れるように、段階を踏んだ多様な支援策を作り出していくべきでしょう。

5月の新潟県知事選挙で再選された花角知事に改めて、知事の目指す県政のあるべき姿を公約の実現という観点に沿って質問しました。

## 「選ばれる新潟の実現」について

Q: 地域産業を守り発展させていくためにも、スムーズな事業承継や労働力確保が課題であると考えているが、県としてどのように県内企業を支援していくのか、方針を伺う。

A: 本県では経営者の平均年齢が高く、約6割が後継者不在という実態がある。県では国、商工団体及び弁護士等の専門家による事業承継ネットワークを通じてM&Aを含む第三者承継や事業者と起業家とのマッチングなど必要な支援をしていく。

Q: 今般のコロナ禍が収束した後には、外国人労働者の受け入れも増加すると見込まれる。受け入れる企業側と外国人労働者の双方をサポートする環境整備が必要と考えるが、所見を伺う。

A: 現在「外国人材受け入れサポートセンター」にて専門的な手続き等に関する相談を受け、関係機関と連携して企業合同説明会を開催して受け入れ拡大を支援している。一方外国人労働者に対しては「外国人相談センター新潟」が多言語で対応している。今後も他機関と連携して円滑な受け入れに向けて努力していく。

Q: 県内の婚姻率の低下は若年層の女性が新潟県から都市部へ流出していることが大きな原因だと推察される。「若い女性たちに選ばれる新潟」という視点が重要だと考えるが、そのためにどのような施策を重点的に実施していくのか、知事の所見を伺う。

A: 国の調査によれば就職先を選択する際に、給与の水準、自分の関心にあった仕事ができるか、また育児・介護のための制度の充実等を重視する傾向にあると言われる。県としては所得水準の向上、ワーク・ライフ・バランスの推進、女性が活躍しやすい環境づくりに企業等と連携して取り組んでいく。

## 新潟県の農業政策について

Q: 近年、本県の魚沼産コシヒカリなどブランド米については、首都圏での人気が高く、手に入りにくい



という声を聞くが、新潟米の首都圏でのブランド力について所見を伺う。また新潟米の輸出実績は輸出货量・金額ともに拡大傾向にあると承知し

ているが、海外における新潟県産米の認知度や需要は拡大しているのか、所見を伺う。

A: 最近の調査では新潟県産コシヒカリは「米どころ」として伝統ある「品質が高く信頼できる」などのイメージが浸透しているという評価をもらっている。また新之助も市場からの引き合いが強いと聞いている。主要輸出国が多いアジアでは伸び悩みの傾向だが、欧米での需要は拡大している。

Q: 「にいがたAFFリーディングプラン」に記載があるとおり、「にいがた和牛」は出荷頭数や認知度が低いという課題がある。今後、にいがた和牛のブランド構築に向けた取組を積極的に進めていくことが必要であると考えているが、所見を伺う。

A: 全国各地でブランド牛競争が激化する中、品質の確保に加えて消費者に魅力を広く発信すること、必要な量を安定的に供給していくことが重要と認識している。このため関係団体と連携して、県内観光業者への働きかけや県内外の小売店・海外レストランへのプロモーションによる認知度を高め、生産者の規模拡大により需要に応じた供給体制の確立に取り組んでいく。

## 県政の諸課題について

Q: 新型コロナ感染症の影響に加え、昨今の物価や光熱費の高騰で生活保護受給者の生活は一層苦しくなっている。中には就労可能な人もいることから、県としても国に対し、就労収入非課税限度額の引き上げや個人の就労能力に応じた就労のあっせん体制の強化を要望していくべきではないか。

A: 生活保護受給者が就労することは、経済的・社会生活の自立という面からも極めて重要と考える。就労インセンティブの仕組みを作ることが国でも議論されており、今後の見直しに向けた検討を注視すると同時に県としても必要な要望を行っていく。

Q: 近年「元気な高齢者にはなるべく長く働いてもらう」という考えが社会では主流であり、年金の繰り下げ受給を望む人が増えてきている。しかし、現行の年金制度は配偶者の死亡により遺族年金の受給資格者となると自動的に繰り下げ受給対象から外されるという制度的な欠陥がある。年金制度は老後の生活を支える重要な収入源であり、本県の高齢者にとっても影響が大きいことから、県として制度改正を国に要望すべきであると考えているが、どうか。

A: 厚生年金保険法等に基づく現行の年金制度では指摘された通りであると承知している。今後の国の動きを注視し、必要に応じて国に要望していく。

# さくらば節子の活動記録（令和4年1月～令和4年8月）



**1月10日 地域恒例の賽の神行事参加**  
地元恒例のお正月行事では、一年間の無事故無火災、家内安全を祈念します。



**2月11日 大雪の作業中に骨折**  
今年も大雪に見舞われ、無理が祟って足を骨折。皆様にご迷惑おかけしました。



**4月6日 交通政策特別委視察に同行**  
えちごときめき鉄道直江津駅への視察に同行、「雪月花」の内装を見学しました。



**4月25日 県民所得アップ特別委視察**  
県下の先進事例を視察し、若い社長さんたちの熱い挑戦を拝見しました。



**5月25日 春日山城址草刈りボランティア**  
初夏の地元恒例行事の草刈りに、自衛隊隊友会の皆さまと参加しました。



**6月19日 県政報告配布活動**  
配り損ねていた吉川区にて配布活動。たくさんの皆様にご挨拶できました。



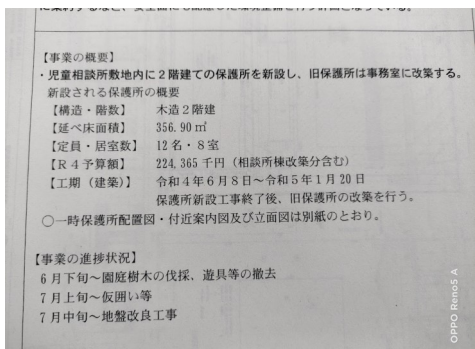
**7月19日 六月議会一般質問に登壇**  
今回は多くの議員が、再任された花角知事の施政方針について質問しました。



**7月24日 自衛隊募集相談員例会に参加**  
災害も多い昨今では自衛隊員の活躍が期待されます。目標に向け決意も新たに出発。



**8月6日 「きもの姿で蓮めぐり」を主催**  
東洋一の蓮を着物姿で散策。今年は博物館にて小休止しました。会員募集中です。



**8月8日 上越振興局との行政懇談会**  
市民の皆様のご要望が叶った児童相談所一次保護所の改築計画が報告されました。



**8月15日 戦没者慰霊祭に参加**  
今日の日本の基礎を作ってくださった方々の御英霊に対して平和の誓いを捧げました。



**8月21日 第97回「謙信公祭」を観覧**  
勇壮な太鼓の鳴り響く中、甲冑に身を包んだ勇ましい武士たちが行進していきました。

# さくらば節子の随想—安倍晋三元総理の遺産と日本の未来

7月8日、安倍元総理が参議院選挙の遊説中にテロリストの凶弾に倒れました。心よりご冥福をお祈りいたします。ここでは安倍先生が目指された目的地と功績を今一度振り返り、そして今後の日本のとるべき道について考察してみたいと思います。

## 日本のナショナリズム

日本は二千年以上にわたり、万世一系の皇統と生活の隅々まで行き渡る伝統と文化、慣習に支えられて作られた国です。天皇は国民を言い表す時「おおみかから(大御宝)」という言葉を使われてきました。天皇にとって自分と血のつながる全ての一族、国民全体の命が一番の宝であるという意味です。日本は古代から権威(天皇)と権力(時の権力者)を分離することにより、国民全体が天皇の家族であるという意識の下(権力者間の争いは常にあったにせよ)、平等で平和な国を築いてきたのです。世界の歴史が内戦・殺戮と王朝の転覆、外国勢力による侵略と奴隷化の連続であったことを考える時、日本が天皇の下に平和裡に歴史・文化・伝統を紡ぎ、独立国家として二千年以上存続してきたことは奇跡的なことであるように思えます。

## 共産主義、グローバリズム vs ナショナリズム

20世紀からの世界は、第一次世界大戦、世界恐慌、第二次世界大戦、東西冷戦とその終結、中東における幾多の紛争と続き、現在では中共による覇権とグローバリズムが全世界を覆いつつあります。日本の大企業の多くは中国に生産・販売を大きく依存し、もはや中国なしには成り立たない状況です。また軍事的にも「一つの中国」という名目で、実効支配と自治を50年以上継続してすでに独立した国家である台湾を、侵略・属国化しようと企んでいます。台湾有事になれば日本もまた有事になるでしょう。

一方で国際金融資本、グローバル企業群、社会主義革命思想が結びついたグローバリズムがソ連崩壊後、急速に世界を席卷しつつあります。世界経済フォーラムで議論されてきたことは、脱炭素、SDGs、住宅・車は所有せずレンタル、食料の一括支配、デジタルマネーによる資産管理、人口削減、全人類の地球市民化、AIによる言論のグローバルな検閲など。これらの案は地球規模の統制社会、社会主義化につながる大きな危険性をはらみます。

このような中央集権主義勢力が、トランプ元大統領や安倍元首相をはじめ、自国の歴史・伝統・文化をアイデンティティとするナショナリスト達と真っ向から対立するのは当然と言えます。

## 「戦後レジームからの脱却」と「日本を、取り戻す。」

「戦後レジーム」とは「GHQによる敗戦国の枠組み」に閉じ込められた日本とその諸制度です。安倍先生は憲法をはじめ、この国の大きな枠組みを変え、教育、家族、社会、経済等のあり方を含めて「戦後体制から脱却」し、本来の「日本を取り戻す」ことに生涯を賭けてこられました。この目標を達成するために、安倍先生は歴史と未来を見据えながら《地球儀を俯瞰する外交》を展開し、歴史問題、外交・安全保障問題、経済、教育など広範囲にわたり実に多くの業績を残されました。いくつか挙げれば、

- 「自由で開かれたインド太平洋」構想
- 平和安全法制、特定秘密保護法の制定、国家安全保障会議(NSC)の設立
- 教育基本法改正等の「教育再生」改革
- アベノミクス(消費増税がブレーキになったが)

## 今後の課題と日本の未来

日本の「総合安全保障」の鍵となる人物を失った今、日本は二つの中央集権主義勢力に無防備に晒された危機的状況にあると言えます。まず保守勢力は団結し、安倍路線を継承して経済・外交・防衛に当たらなければなりません。そして積極財政により日本の経済、インフラ、防衛力等を強靱なものにすることが急がれます。ウクライナ紛争で浮彫りになったエネルギー・食料安全保障も喫緊の課題です。

独立国家であることを放棄する憲法第九条は早く改正しなければなりません。しかしながら憲法は国の骨格であり、国の未来を決定するものです。日本を日本たらしめてきたもの、歴史・伝統・文化・思想、についての根本的な議論の上で自主憲法を制定すべきであると考えますが、いかがでしょうか。

私たちは皆、平和で豊かな世界を築きたいと願っています。そのためにも、各々の国と民族が持つ独自の文化や伝統は、彼らによって大切に守られるべきであると思います。そして独立する国々が互いを尊重して学び、助け合っていく中にこそ真の平和と豊かな世界が実現できると考えます。日本国民一人一人の手で日本を護り、「美しい国へ」、「新しい国へ」と向かって行きたいと願うものです。

発行日：令和4年9月12日

発行：櫻庭節子

住所：〒943-0882

上越市中田原78-27 さくらば節子事務所

電話：025-520-8221

Fax：025-520-8228

電子メール：office@sakuraba-setsuko.jp

sakuranokai@gmail.com